

6287 サトーホールディングス

松山 一雄 (マツヤマ カズオ)

サトーホールディングス株式会社代表取締役執行役員社長兼 CEO

**海外の収益力が改善し、営業利益は過去最高を更新。
欧州も5年ぶりに営業黒字化。**

◆2013 年 3 月期第 1 四半期の連結業績

売上高は 226 億 19 百万円(前年同期比 106.7%)、営業利益は 12 億 92 百万円(同 121%)、経常利益は 14 億 25 百万円(同 199.4%)、純利益 8 億 45 百万円(同 376.6%)であった。連結ベースで増収増益となり、計画値に近い進捗となった。経常利益については為替の影響で計画値を上回っている。欧州や国内での構造改革が終了し、最終利益の出る健全な財務体質に転換することができた。

連結業績の内訳は、国内は売上高 157 億 7 百万円(前年同期比 99.2%)、営業利益 8 億 67 百万円(同 96.6%)で、前年も計画値も若干下回った。米州は売上高 22 億 96 百万円(同 126.4%)、営業利益 1 億 22 百万円(同 129.3%)、欧州は売上高 17 億 28 百万円(同 133.5%)、営業利益 29 百万円、アジア・オセアニアは売上高 28 億 87 百万円(同 127.7%)、営業利益 2 億 63 百万円(同 172.9%)という結果となった。欧州が 5 年ぶりに黒字化するなど海外は収益力が改善し、トータルで 4 億円を超える営業利益を出した。これは昨年の海外 1 年分に相当する利益で、営業利益としては過去最高である。

海外全体の好調により、国内メカトロ製品売上の前年割れなど国内の落ち込みを連結ベースでカバーし、グループ連結売上は第 1 四半期として過去最高を更新した。

国内の状況は、サプライ売上が前年同期比 101%で順調に伸びている。それに対してメカトロ売上は製造業を中心に引き合いが弱く、95.7%で前年同期比割れとなった。粗利率は 0.5 ポイント改善したが、新製品の開発費増等により、営業利益は減益となった。

国内の事業部別の売上は、リテールが若干伸ばしているが、FA、ロジスティクス、メディカル、食品は弱含みでフィニッシュしている。

また、FA のハードウェア売上は、産業機械の受注統計データに月次ベースで連動している。産業機械の受注額が 6 月以降は伸びる見込みから、FA の受注額についても、第 2 四半期以降は伸長を予想している。

米州の状況は、北米が為替の影響を除くと、若干前年割れとなっている。それに対して南米は好調を保っている。特にアルゼンチンで買収したアチエルナが計画どおりに売上高、利益を伸ばしている。それによって米州全体としては、売上高、営業利益ともに計画値をクリアした。北米においては、第 4 四半期に新しいプリンタを投入する計画があり、それまでは我慢の時期と考えている。

欧州は、構造改革が終了し、四半期ベースで黒字化を実現した。トピックスとしては、英国では大口ラベル商談受注により、トップラインが大幅に改善したことに加え、印刷設備更新により生産性が改善したことも黒字化に寄与した。ドイツは大手アパレル向けにモバイルソリューション大口商談を締結し、一部納品があった。収益体質強化により営業利益は黒字となった。スペインは 32 百万円の赤字を出しているが、第 2 四半期以降は、ベルギー法人の支店として事業を継続し、黒字化を見込んでいる。

アジア・オセアニアの状況は、中国が依然として前年割れの 96%だったが、6 月単月でみると売上 101%に回復しており、売上は下げ止まったとみている。ARGOX は横ばいとなっている。一方、インドネシア、ベトナム、インド等

の新重点市場では計画どおりに伸長している。海外におけるハードウェア受注増により、マレーシア、ベトナム工場の稼働率が上がり、工場の利益が大幅に伸びたことが利益増に貢献している。

◆第2四半期以降の取り組みについて

第2四半期は、一件100万円以上の大口商談が第1四半期と比較し、30%増を見込んでいる。

営業戦略機の投入として、大口案件向けモバイルプリンタを「サトーブランド」化して販売する。顧客ニーズに合致する性能を追求した結果、使い勝手がよく、コスト的にも競争力のあるものができた。

特徴としては、現行同型機種よりも印字スピードが速く、世界最速レベルである。また業界初の有機ELディスプレイと大型LEDを搭載し、見やすさを追究した。堅牢性についても世界最高クラスで耐落下性1.8mを誇り、落としてもそのまま印字を継続することが可能である。また、サイズは世界最小クラスの軽量コンパクトを実現した。

国内では既に商談が始まり、最大で5万台の受注を見込んでいる。このうちの一部が2013年9月から納入が始まる。海外でも安全規格を取り、来年以降、商談にチャレンジしていきたいと考えている。

また、米国のNexgen Packaging社の株式を一部取得し、戦略的提携を行った。Nexgen Packaging社はアパレル業界向けに、ブランドのタグ、値札、パッケージのデザインなどを行っている会社である。2006年設立以降急速に成長しているおり、エンドユーザーには米国大手アパレル企業などが名を連ね、協業が楽しい会社である。

Nexgen Packaging社では、タグやパッケージをすべてアウトソーシングで行っているが、オペレーションは香港にあり、香港を拠点に当社はタグの一部を供給している。下期からは、RFIDタグを香港経由で供給し、中国香港で調達されるアメリカ向けのアパレルにRFIDタグをつけ、それを米国に送り返すというビジネスを展開していく。

アパレルID市場で、RFIDは100億円規模だが、今後バーコードがRFIDに置き換わることで、2020年には700億円規模になるだろうといわれている。Nexgen Packaging社が求めるRFIDを当社が提供することで、アパレル業界の中でシナジーを作り出すことができるのではないかと考えている。

◆2013年度連結業績見込み

上期は売上高475億円、営業利益30億円、為替と第1四半期の動向を反映し、経常利益については29億円から31億円、当期純利益については17億円から18億円に上方修正した。通期は売上高960億円、営業利益65億円、経常利益は63億円から65億円、当期純利益は36億円から37億円に上方修正した。

(平成25年7月30日・東京)